

石井漢 いしゐ 舞踊家。明治十九年十一月二十五日秋田縣山本郡下岩川村生れ、昭和二十七年一月七日歿（八六—一九六二）。本名忠純。筆名草秀。秋田中學校を中退、文學を志して明治四十年上京。同郷の小杉天外家の書生として住込み、のちに鳥糞川宅に移る。帝劇歌劇部第一期研究生となりG・V・ローシームクラシック・ズレーキを習ふ。大正二年卒業、五年林郎を漢と改稱し、舞踊詩と命名して創作舞踊と帝劇で発表と理解されず、翌年以後淡草オペラに出演。十一年義妹石井小浪（こしなみ）とゴローロッパに渡り、最初の公演地ブルリンに純賛を浴び、各地を巡演。歸國後石井漢舞踊研究所を創設、朝鮮出身の崔承喜等多くの後進を育てた。

著書、小、隨筆『私の顔』（昭和十五年八月二十日モダン日本社）、『世界舞踊藝術史』（昭和十八年九月七日玉川書館出版部）、『舞踊と私』（昭和二十一年十月二十日右文社）、『私の舞踊生活』（昭和二十六年一月二十日日本雄弁会講談社）等。山野辺貴美子著『ゴゴゴのぼかー人間石井漢』（昭和二十七年二月七日宮坂出版社）がある。

